

MG☆SUZU、始動。

白金キャンパスからほど近い新橋に、特別養護老人ホーム・老人保健福祉施設・知的障害者更生施設の3つの機能を兼ね備えた複合型の福祉施設「福祉プラザさくら川」がある。この1階に、「茶房さくら川」があり、施設利用者をはじめそのご家族、施設職員の方、地域の方々や近くにお勤めのサラリーマンなど、様々な人々が訪れる地域交流スペースとなっている。この場所で始まったのが昨年度から行われている「さくら川・明治学院大学地域連携プロジェクト」である。当初の活動は明治学院の学生が、茶房さくら川でお手伝いをする事によって施設と地域との架け橋になるという目的で始まった。しかし、昨年度はメンバーが減ってしまったり、様々な課題や問題を残しながら今年度を迎えることとなってしまった。そこで今年度春学期、再起をかけて動き出した。新たな気持ちで再出発の意味をこめ、このプロジェクトの学生メンバーにチーム名をつけることにした。それが「MG☆SUZU」である。とは言っても、この段階で人数は昨年度からのメンバー一人。そこでまずはメンバーを募集するため、大学ポータルサイトで呼びかけたり、白金学生スタッフ主催のベンチャーサークル合同説明会（本書25ページを参照）に参加した。その一方で、ボランティアファンド学生チャレンジ賞（本書54ページを参照）に応募し、助成を受けることになった。その際に企画したのが、「アートプロジェクト」である。施設の中には素敵な魅力を持った方がたくさんいらっしゃる。このプロジェクトは、その魅力をアートという手段で形にし、茶房や大学で展示することによって、地域社会に発信していきたい、また学生と利用者が会話をしながら作品制作を行う中で、利用者の方々に楽しんでもらいたいという企画だ。

このように、たった一人からの再出発であったが、助成金も獲得し、メンバー募集も地道に続けた結果、メンバーは一人から二人、三人と増え、ついに、さくら川と大学ボランティアセンター、そして学生の三者ミーティングを開催することができた。三者ミーティングでは、さくら川からたくさんアドバイスを頂き、施設内にある特別養護老人ホーム「さくらの園」でアートプロジェクトを行わせて頂くことになった。また、このアートプロジェクトの魅力を学生に伝えるべく、さくらの園施設長・浦谷馨さんを招いて大学内でトークイベントを行った。このトークイベントの参加者から新たなメンバーが一人増え、MG☆SUZUは四人になり、「チーム」と呼べるところまでに至った。

このアートプロジェクトの主役は利用者の方々であり、利用者を第一に考えていかなければならない。そこでまず、10月から12月は利用者の方に私たちを知っていただき、交流を深める期間とした。おやつの時間にボランティアとして伺い、お話をしたり、粘土を使った体操などを行った。そこでの交流を土台に1月から2月にかけて作品制作にとりかかり、3月には施設内や茶房、そして大学での作品展示を行いたい。具体的には、「アートの花が咲く木」を作り上げること。これは学生が用意した木に、利用者の作品を花に見立てて展示するというものだ。

この木が満開の花を咲かせられるよう、MG☆SUZU 全員手を取り合って頑張っていきたい。

社会学部社会福祉学科2年 依田 ツカサ